

公益財団法人 檉の芽会 御中

伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日	令和6年3月12日	
②法人・団体名	一般社団法人飛島学園		
③所在地	〒714-0302 岡山県笠岡市飛島 6402 番地 2		
④責任者氏名	堂野博之	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	日置 幸	(役職名等)	学習・進路指導

【奨学活動の概要】	⑥助成交付決定番号	R05-016	⑦助成金額	50万円	⑧申請カテゴリー	C
⑨奨学活動名	はぐくみ奨学制度（高校受験対策講座）					
⑩主な実施場所	フリースクール育海					

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足
中学生等	120	3	360	
高校生等				
大学生等				
学習支援員等				
その他				
合 計			360	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 5 年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：

法人・団体名：一般社団法人飛鳥学園

作成者 氏名：堂野博之

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

離島留学に参加している中学生（不登校・ひきこもり）を対象として、個別伴走型の高校受験指導および学習指導により、高校進学等への挑戦をサポートした。

参加する生徒のほとんどは不登校状態で基礎学力が低く学習習慣が身につけていない。学習の遅れが自己肯定感の低下の要因にもなり、学校へ登校することが困難となっている子どもたちが多く。そのために、4月から6月を指導者との信頼関係構築を目的としたエネルギーを蓄える期間として位置づけ、様々な体験活動を実施した。7月から3者面談、進路指導を経て受験指導を開始し、高校受験までの学習指導と学習意欲の意識向上をサポートした。

2. 実施した奨学活動の詳細

対象者：中学3年生 2名 中学2年生 1名

日 程：毎週日曜日（6月～3月）

場 所：笠岡市飛鳥研修所および結ゼミナール鴨方教室

時 間：13:00～16:00

内 容：一斉授業型の学習指導ではなく、子どもの気持ちに寄り添いながら自学自習できる意欲を育み、目標に向かって努力できる力を養う。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

勉強に対する苦手意識が強く、常に受け身であった子どもたちであったが、自身の人生を自分事として捉えることが出来るようになった。課題を与え授業を受けることで「やっている」気持ちになって満足するのではなく、しっかりと学習内容を身につけるための子ども自身の意識改革が必要であった。そのためには学習に向き合う姿勢だけではなく、日常生活において自分で考えて主体的に行動する習慣を身につけさせる必要があった。

学習指導の場面だけではなく、子どもが主体的に考えて行動する力を育むことが、結果として学習に向かう姿勢に繋がることを実感した。苦手で向き合うことから避けていた勉強が、人として成長するためのひとつのコンテンツになることが確認できたので、今後の離島留学に欠かすことの出来ないプログラムになると確信した。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

離島留学では食事の準備や掃除、洗濯まですべて子どもたちだけでおこなうため、学校に登校している子どもは日々の学習時間を確保することも難しい状況があり、そのような生活環境の中で受験勉強に取り組むことは子どもたちにとってはかなり厳しい挑戦となった。

当初は学習時間が確保できないと苦しんでいたが、自分の生活を振り返ることでタスク管理の意識が向上し、1月に入ると仲間に協力を要請し、チームとして受験生を応援する体制ができた。ひとりでは甘えや逃げに落ち入りそうになるところを、全員がサポートすることで集中して頑張ることができた。

ふたりの受験生は昨年まで不登校であったが、離島留学に参加することで学校に通うことが出来るよ

うになり、確実に自律に向けた一歩を踏み出す活動となった。

本助成の活動は、週1回の学習サポートが基本であるが、その時間が最も効果的なものとなるためには、日々の生活の姿勢が大きく影響するため、助成事業の枠を越えた活動へと発展していった。学習指導担当者と子どもの生活に寄り添うスタッフが密に連携し、常に子どもの意欲を促すアプローチを心がけて対応したことで、子どもたちの成長に繋がった。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）